

御前山ビオトープ通信

平成19年11月3日

第20号

編集： NPO「美しい田園21」 清野



メール：denen21@hb.tp1.jp



目次

- 1 関係機関打ち合わせ
- 2 間伐作業の実施

1 関係機関打ち合わせ



平成18年3月20日（金）「御前山ビオトープ」の将来的な管理方法、管理体制などにかかる打ち合わせが御前山総合支所において開催されました。

これは事業所から「御前山ダム周辺住民参加型環境保全活動促進方策検討委託事業」として財団法人「日本グラウンドワーク協会」に委託して開催されることになったもの。

初回は鈴木昌友先生をはじめ19名が参加し、ビオトープの現状や今後の進め方などについて検討が行われました。

その後も、平成18年6月27日、平成19年1月24日には12名、2月には1

出席者

所 属	氏 名
松山集落関係者（区長）	国安 清
松山集落関係者（副区長）	青山 榮一
松山集落関係者	青山 保昭
松山集落関係者	桜井 亀治
松山集落関係者	青山 修一
常陸大宮市御前山総合支所 支所長	會澤 勲
経済課係長	石崎 重昭
茨城県常陸太田土地改良事務所 計画調整課主査	大内 正勝
工務第一課主任	竹内 浩二
アドバイザー（茨城大学名誉教授）	鈴木 昌友
アドバイザー（旧御前山村長）	長山 安隆
那珂川沿岸農業水利事業所 所長	小澤 興宏
事務次長	青柳 信夫
工事第一課長	廣川 正英
庶務課長	小林 幸夫
企画官	柳原 正
係長	永田 浩章
日本グラウンドワーク協会 主任研究員	松下 重雄
副主任研究員	塩谷 美徳

1名、3月には12名が参集し継続的に打ち合わせが行われました。

その結果今後の展開に向けて以下のような5つの方針が提示されました。

- ①御前山地域環境保全ネットワークの形成
- ②都市部も含めた広域的な教育機関との連携
- ③生涯学習の場としての利用
- ④地元での学習会の開催
- ⑤自然環境調査の実施と環境学習教材等の作成

さらに、具体的な取り組み方針について継続的に検討する必要があります。

2 間伐作業

林間に移植した「フタバアオイ」や「イヌシヨウマ」を観察すると、移植直後は元気でしたが、少し元気がありません。

観察すると、林の中なので日照が不足しているようです。

地主さんの理解を得て、有志で間伐作業をすることにしました。

この作業には、県南部の守谷市の「立沢里山の会」の皆さんも参加してくれました。

木漏れ日が差し込み、少し下草が生えるくらいの環境が理想なのです。

間伐作業は冬場に行いますが、斜面での作業、枝払い、運搬にチェーンソー使用など危険作業に重労働となかなか大変です。

結果、何とか山野草にも納得してもらえそうな明るい森に様変わりしました。

このように、現場を観察しながら最低限の手を加えることを、専門用語では順応的管理手法といいます。

結果はしばらく様子を観察するしかありませんが、どうなりますか。



間伐作業に併せて、パンフレットや来場者用の記入帳などを入れる箱やカウンターもログハウスに製作取り付けしました。

ログハウスの背中に掲示板がありますが、来場者が何処を歩けばいいか、散策ルートを掲示した方がいいかもしれません。ほとんどの人は入り口から眺めただけで帰ってしまうようです。